

# 老人医療

## NEWS



医療法人財団天翁会  
理事長 天本 宏

### 平成二十四年医療保険・介護保険 同時改定の意義

発行日 平成23年7月31日  
発行所 老人の専門医療を考える会  
〒162-0067 東京都新宿区富久町11-5  
シャトレ市ヶ谷2F  
Tel.03(3355)3020  
Fax.03(3355)3633  
発行者 齊藤 正身  
[http:// ro-sen.jp/](http://ro-sen.jp/)

能病院とともに、地域に密着した地域包括ケアを支援する病院の整備が重要課題となる。

これからの社会保障における

設計に改善を図るべきだ。

同時改定における留意点として、医療保険、介護保険、年金保険の継続性、一貫性、相互補完性を担保し、相乗効果を創造していく社会保障を目指していくことが重要である。特にこの時期（後期高齢者医療保険の見直し）、両保険の改定を同時期に行う趣旨・使命は重大であり早期に政策の方向性を示していただきたい。

「どのようなシナリオに向けて第一歩としての改定」を平成二十四年に行うかといった計画性が重要である。そして計画には、「ポリシー」が不可欠となる。これまでの財源論主導、サービス提供側からの視点ではなく、当事者である高齢者・国民的視点で「社会保障を受ける利用者・当事者の目線」、保険料・税を支払う国民の視点が重要である。

基本的スタンスは「適切な医療を適切な時期に適切な居場所で受けられる」ことである。安心して老後を過ごす社会保障への責任・義務として高齢者自身も保険料を生涯負担し続けていくことが必要だ。社会保障を受ける側の視点が将来の医療提供体制の方向性・軸であろう。これまでは高齢者の病態、障害の程度に応じて箱ものを当てはめ、人生終末期において当事者を転々とさせる「たらいまわし」をしてきたが、高齢者の居場所で受け止める仕組みに転換させていくべきである。箱によってサービスが限られ、当事者はその箱の中のサービスに合わせなければならぬといった構造は改め、適切な医療・介護を、適切な時期に適切な居場所において受けられるような制度

の再構築が医療人に求められる。診療所のみならず地域に密着した中小病院における在宅療養支援機能の需要も急増していくだろう。

また、平成二十五年には第二期都道府県医療計画がスタートするが、市町村の第五期介護保険事業計画および都道府県の介護保険支援計画、高齢者住宅整備計画を視野に入れた医療計画にならなければならない。これからの地域医療の再建には、一次医療圏域を視野に入れた二次医療圏域という構造・連鎖システムとすることが望まれる。急性期、高次機

同時改定は平成二十四年四月に実施すべき。なぜならば次期同時改定では、これからの政策における中期ヴィジョンとなる「第五期介護保険事業計画」、「都道府県における第二期地域医療計画」において推進していく、社会保障の方向性がメッセージとして込められるのである。

第五期介護保険事業計画の推進点は、医療や住まいとの連携を視野に入れた区市町村単位（一次医療圏域？）における地域包括ケアシステムの具現化に向けた介護事業計画であり、二十四時間三六五日体制の一次医療

高年齢ケアの基本原則はトータルケアであり、どこにいても必要なサービスが受けられるサービス構造に沿った重層的保険運用が望ましい。戦略、ビジョンへの議論の段階から、実行行動変容に向けて、老人の専門医療を考える会は歩もうではないか。